

高等学校家庭科男女共修における指導方法研究および教材開発
(第1報) 「児童文化」
武庫川女大 北浦多栄子 滋賀県立甲南高 ○ 杉田千枝子

目的： 文部省高等学校教育改革推進研究協力校の滋賀県立甲南高等学校において、高等学校教育改革研究の一環として平成3年度から導入された学科の枠を越えた選択科目「自由選択制」授業の家庭科分野の一つに、「児童文化」を平成5年度初めて取り入れた。

「自由選択制」は男女自由に講座を選択できるので、家庭科分野では男女共修の模索の一つとなる。「児童文化」男女共修指導方法研究として1年間の教材開発の成果を報告する。

方法： 1) 研究対象 3年生、男子7人女子13人計20人 2) 時間数 週1時間×2回、2週4時間で1教材を研究する。最初の1時間目にはその教材に対する児童心理・必要性・環境問題など周辺学習を行う。最後の時間にできあがった教材の考察・児童文化性を考える。

結果： 動作歌・缶釣り・牛乳パックからのおもちゃ・折り染め蝶々・クリスマス用品・紙しばいなどを履修したが、どの教材にも児童への愛情と文化の伝承があることを理解するため、導入の1時間目には児童文化的意義を話し合い、できあがった最後の時間には作成してみて児童へ与える影響や感想・将来への展望を検討した。最初つっぱっていた男子も生来の子供心は忘れていず作品に工夫をくわえたり、先人の知恵を見出だしたり熱中していた。また大人の入口にさしかかった男子だから考える児童への感覚にハッとすることもしばしば在り、育児は男女両輪でこそ完成することを痛感し、現場で教えてみて改めて高等学校家庭科男女共修の必要性を再認識するものであった。牛乳パックの利用・折り染め・クリスマス用品作成などは初等家庭科教育の教材として応用できる。